東北ビジネス通信

東北イノアック　宮城県美里町

ウレタン製品も好評

ショクバ訪問

東北イノアックは、ゴムやプラスチックなど多様な素材を自在に組み合わせ、工業製品から家庭用品まで幅広く手掛ける。前身の社名「東北井上護謨工業」からはゴム製品のイメージが強いが、自動車部品や寝具に使われるウレタン素材もPRしようと、自治体のキャラクターをかたどったスポンジを作り、好評だ。

約300種類のウレタン素材を持ち、固さや密度の違いを製品の機能性向上に生かしている。昨年6月には独自のマットレスブランド「for my（フォーミー）」を立ち上げた。技術部開発技術課の佐々木祐也係長(38)は「都市部ではベッド用のマットレスが主流だが、地方では畳の上で寝たいという人も多い。地域の方に喜ばれるものを作ろうと、敷布団に合う素材で仕上げた」と自信を持つ。

関連会社「イノアックリビング」東北営業所（仙台市青葉区）の小松洋一さん(36)は昨年11月に商社から転職したばかり。病院や介護施設に寝具を売り込むほか、自治体を回ってキャラクタースポンジの提案もしている。「自社で生まれた商品が普及していくのがうれしい」とやりがいを感じている。

東日本大震災後、社内では「東北のものづくりを全国に発信したい」という思いが強くなった。管理部企画課の寺田政信企画係長(34)は経理など本業の傍ら、自動車部品の現地調達を進める役割も担う。「グループ会社から取り寄せていた部品を3年前から自社工場で製造できるようになり、東北で完結できる仕事が増えた」と喜び、一層の生産向上に意欲を燃やす。

自治体のマスコットキャラクターをかたどった食器用スポンジ。3層構造で、それぞれ違ったウレタン素材を使いカラフルに仕上げた

リアスポイラーなど主力商品を手に、技術力をPRする東北イノアックの社員たち。職場では立場に関係なく「さん」付けで呼び合い、和気あいあいと仕事に励む

INOAC

井上護謨工業の製造子会社「東北井上護謨工業」として1964年、小牛田町（現美里町）に設立された。井上護謨工業の工業ゴム・プラスチック部門とMTP化成が合併した井上MTP（現イノアックコーポレーション）の子会社となり、90年に現社名に変更した。

本社にある小牛田工場と若柳工場（栗原市）、北上工場（北上市）の3カ所で、自動車やIT機器の部品、建築資材など、プラスチック、ゴム、ウレタン製品を幅広く生産。2009年、断熱建材「サーマックス」がノンフロンのウレタン発泡品として国土交通相の不燃認定を受け、翌年には県内企業の工業製品を対象にした「みやぎ優れMONO」にも選ばれた。

14年、発泡品加工部門を「東北イノアック加工」として分社化した。

■所在地　〒987－0005
宮城県美里町北浦二又下28
■電話　050(3145)5836
■資本金　5000万円
■従業員数　241人

▲東北イノアックのホームページは上のQRコードから

「東北ビジネス通信」は、地元で活動する企業の職場紹介やトップらへのインタビューで構成するシリーズです。企画・制作は河北新報社営業戦略室　022(211)1350。

随時掲載

いんたびゅ～

独自の商品 次々と開発

松田　行司　代表取締役社長

「東北発の商品を、国内だけでなく海外でも販売していきたい」と事業拡大に意欲を燃やす松田社長

―幅広い分野の製品づくりに取り組んでいます。

「わが社は宮城県の誘致企業で、工業用ゴム製品や自転車用タイヤ、プラスチック製品を作る会社としてスタートしました。現在は売り上げの60%が自動車関連部品で、情報機器の部品や建築用資材、自転車用タイヤも製造しています」

「親会社が自動車の部品を作っており、その関係から、当社は20年前、トヨタ自動車の子会社に部品を提供し始めました。現在は北上工場でトヨタ自動車東日本の小型車『アクア』や小型SUV『C－HR』のリアスポイラーを製造しています。北上を含めた3工場で内・外装用部品を生産しています。トヨタ東日本の工場の生産ラインを流れる車体の色の順に同じ色の部品を納品する方式への対応などの改善が評価され、今年3月に同社から『ものづくり貢献賞』を受けました」

―目指す企業像は。

「イノアックグループの企業理念は『一本の大きな木を育てるより、多くの個性ある木を育て、美しい森をつくる』。いろいろな事業を展開するとともに、個性ある社員が能力を発揮できる企業を目指しています」

―産学官連携や地域貢献活動も活発ですね。

「3年前から東北工業大、宮城県と連携し『水が無くても髪が洗えるドライシャンプー内蔵のくし』という防災グッズを開発し、商品化を進めています。仙台国際ハーフマラソンや錦秋湖マラソンなどに給水スポンジを提供し、企業PRにも力を入れています」

―今後の経営方針は。

「創業時は井上護謨工業の地方工場という位置付けで、親会社が企画、設計した通りに製品を作るのが役割でした。今は地方工場であっても、独自に新しい事業や新製品を開発していかないといけません。社員には失敗を恐れず、さまざまなことに挑戦してもらい、東北発の新たな事業の創出、展開に取り組んでいきます」

まつだ・こうじ　1950年愛知県岡崎市生まれ。大阪府立大工学部卒。73年、MTP化成に入社。イノアックコーポレーション常務取締役、代表取締役執行副社長、代表取締役執行社長などを歴任し、2013年から現職。趣味は料理と読書。